



▲曇り空のため、代わりに手作りの初日の出を拝む参加者。

第35回「新春のつどい」

加西市青少年団体連絡協議会が主催する「新春のつどい」が元日の早朝に開催され、約500人がいこいの村裏山のランドマーク展望台に登りました。

参加者は山頂で日の出を待ちましたが、あいにくの曇り空。そこで、同協議会が事前に用意した手作りの太陽を竹で掲げ、初日の出に見立てて拝みました。

下山後、参加者はアラジスタジアムの駐車場でふるまわれた温かいお雑煮を食べたり、お年玉抽選会を楽しんだりしました。

平成24年加西市新年交歓会

新年交歓会（加西市・加西市議会・加西商工会議所共催）が1月5日、いこいの村はりまで開催されました。

市内の各種団体の長や企業の経営者のほか、議員や来賓など関係者約220人が参加しました。参加者らは新年の門出を祝うとともに、抱負や希望を語り合う中で交流を深めました。



▲商工会議所の千石唯司会頭の音頭で乾杯。



▲燃え上がる炎に「書き初め」などを入れる児童ら。

宇仁小で「とんど大会」

宇仁小学校の新校舎予定地で1月12日、「とんど大会」が開催され、児童や宇仁幼児園児、保護者ら約130人が参加しました。

20年以上前から毎年続けている年始の恒例行事で、高さ12mもある大きなやぐらは、地域住民やPTA役員、教職員らが作りしました。児童らは「書き初め」や「正月飾り」を持ち寄って焼き、書道の上達や無病息災などを祈りました。



▲幼稚園児と横山巡查部長が新駐在所の前で記念撮影。

新しい西在田駐在所で開所式

老朽化により34年ぶりに建て替えられた加西警察署・西在田駐在所（下道山町）で1月12日、西在田幼稚園児や地元住民ら約40人を招いた開所式が行われました。

園児たちが「いつもありがとう。これからもみんなのことを見守ってください」と声をそろえると、同駐在所の横山知久巡查部長が「了解しました」と力強く答え、地域に信頼される駐在所への決意を述べました。



▲折り紙のカメをプレゼントされ喜ぶ園児たち。

北条南保育所に折り紙のカメをプレゼント

北条南保育所で毎月1回、ボランティアで折り紙を教える橋本スミ子さん（北条町東高室）が12月22日、園児たち18人に1体ずつ折り紙のカメをプレゼントしました。

橋本さんはカメ1体につき400枚の折り紙を使用し、3か月かけて18体を作製。「みんなが元気に育つように」と願いを込めて折り上げました。園児たちは大喜びで、手のひらに乗せ「かわいい。ありがとう」と見つめていました。

文化財を自分たちの手で守ろうと防火訓練

酒見寺多宝塔（国指定重要文化財・北条町北条）と法華山一乗寺三重塔（国宝・坂本町）で1月23日、北はりま消防組合加西消防署と加西市消防団による防火訓練が行われました。

奈良県の法隆寺の金堂が炎上したことを契機に制定された1月26日の「文化財防火デー」を前に、関係者と協力して大切な文化財を災害から守るとともに、市民の文化財保護意識の高揚を目的に毎年行われています。



▲酒見寺では消防署4人、消防団第1分団157人が訓練に参加し、放水銃で初期消火活動を行いました。



▲市長に民族楽器アングルンを説明する学生たち。

インドネシアの大学生が表敬訪問

インドネシアのジャワ島バンドン市にあるパジャジャラン大学で日本語を専攻する学生15人が1月18日、西村和平市長を表敬訪問されました。

日本語学習と民族楽器アングルン演奏での文化交流を図るために来日。1月16日から主に市内でホームステイし、日本の暮らしを体験しながら、幼稚園や公民館などで文化交流をしています。「日本の敬語が好きです。日本人は想像していた以上に親切で優しい」と学生たち。滞在は2月12日までの予定です。

法華口駅・網引駅の新トイレが完成

昨年11月から取りかかっていた、北条鉄道の法華口駅と網引駅のトイレの建替工事が完成しました。

北条線開業（1915年）当初に建設された法華口駅トイレは、老朽化が進み利用者が使いづらい状況でしたが、地域住民・企業によるボランティア作業や寄付で新設。網引駅も同鉄道が国庫補助を活用して設置しました。

今後、ほかの駅でも寄付を呼びかけるなど、地域の皆さんの協力を得ながらトイレ整備を進めていく予定です。



▲駅舎に隣接する水洗化、バリアフリー化された法華口のトイレ（左）。



▲新成人527人の内437人（約83%）が参加した今年の成人式。

2012年成人式

市民会館で1月7日、加西市成人式が開催され、久しぶりに会う友人たちと旧交を温めました。

貧困に苦しむ世界の子どもたちを支援しようと、事前に実行委員会が持参を呼びかけたペットボトルのキャップは123,837個（ポリオワクチン155人分）が持ち寄られ、1月13日に関係機関に寄付されました。

公民館登録グループが被災者支援活動

中央公民館に登録する手編みのグループ「虹の会（久保田敏子代表）」が、日頃の活動で作った手編みグッズを、加西市社会福祉協議会の協力を得て、東日本大震災で被災された宮城県気仙沼市の方々に送られました。

被災された方々を支援しようと、講師の井塚徳子先生が寄付された毛糸を、会員29人が「寒い冬を乗り切りたい」と心を込めて編んだものです。



▲手編みマフラーなど約200点を送られた「虹の会」の皆さん。